

配置比較表

検討条件

・レッドゾーンに配慮した配置計画とする。・グラウンドは6,000㎡以上確保する。・校舎はできる限り低層化する。

凡例

◎：たいへん良い ○：良い △：課題あり

	A案：校舎と体育館を北側に集約配置	B案：校舎を北側、体育館を南側に配置	C案：校舎を西側、体育館を南側に配置
各案のポイント	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトな集約配置 周辺環境への影響・環境負荷低減 南側採光による良好な環境 	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎と同様な建物配置 地域から体育館へのアクセスが容易 	<ul style="list-style-type: none"> 吹抜けによる立体性・回遊性のある構成 地域から体育館へのアクセスが容易
配置図	<p>延床面積：約 10,730 ㎡ 建築面積：約 4,200 ㎡ グラウンド面積：約 6,360 ㎡</p>	<p>延床面積：約 11,230 ㎡ 建築面積：約 4,000 ㎡ グラウンド面積：約 6,080 ㎡</p>	<p>延床面積：約 11,160 ㎡ 建築面積：約 4,370 ㎡ グラウンド面積：約 6,025 ㎡</p>
各階平面ゾーニング (案)	<p>約 45m</p>	<p>約 125m</p>	<p>約 110m</p>
評価項目	評価	評価	評価
階数	○ 3階 (プール4階)	△ 4階	○ 3階 (プール4階)
教室移動動線	◎ コンパクトな配置かつ3層のため教室移動の動線が短い 各教室から体育館への導線が近い	△ 4層のため教室移動の動線が少し長い 体育館までの動線が長くなる教室ができる	△ 平面的に細長い形状のため、教室移動の動線が長い 体育館までの動線が長くなる教室ができる
普通教室の採光	◎ 全ての普通教室が南面採光となる	○ 全ての普通教室が南面採光となるが、 午後の時間帯に体育館の日影が普通教室にかかる	△ 大部分の普通教室が東面採光となり、 午後以降は直射光が届かない
グラウンド	◎ 敷地の南側に配置するため十分な日照を確保できる グラウンドの水はけがよい	○ 午後において、西側建物の影がグラウンドに落ちるため、水はけの悪い場所が生じる 形状がほぼ整形	△ 午後において、建物全体の影がグラウンドに落ちるため、水はけの悪い場所が生じる 形状がやや不整形
近隣への影響	◎ 近隣への日影が最も少ない 周辺敷地に対しての圧迫感が少ない	△ 西側敷地に日影が生じる 西側敷地に対して圧迫感がある 西側集合住宅に体育館の音・照明の影響が懸念される	△ 西側敷地に日影が生じる 西側敷地に対して圧迫感がある 西側集合住宅に体育館の音・照明の影響が懸念される
体育館等の地域利用	○ 敷地入口から体育館までの距離が少し遠い	◎ 敷地入口から体育館までの距離が短い	◎ 敷地入口から体育館までの距離が短い
環境負荷	◎ 体育館を取り込んだ計画のため外壁面積が最も小さく熱負荷が抑えられる 東西軸配置のため西日による熱負荷が抑えられる	△ 外壁面積が大きく熱負荷が大きい	△ 西日による日射負荷が大きい、外壁面積が大きく熱負荷が大きい
仮校舎の配置・仮校庭確保	○ 仮校舎使用中の校庭面積の確保がしやすく、また工事エリアとの距離も取りやすい。	△ 仮校舎と工事エリアがとの距離が一部取りづらい	○ 仮校舎使用中の校庭面積の確保がしやすく、また工事エリアとの距離も取りやすい。
工事中の安全確保	○ 異なる出入口にしたり工事エリアを明確にすることで、工事車両と児童の動線を分けることができるため工事中の児童の安全を確保できる。	○ 異なる出入口にしたり工事エリアを明確にすることで、工事車両と児童の動線を分けることができるため工事中の児童の安全を確保できる。	○ 異なる出入口にしたり工事エリアを明確にすることで、工事車両と児童の動線を分けることができるため工事中の児童の安全を確保できる。